

令和7年度知床国立公園ストーリーブック作成にかかる

事前調査業務 報告書



令和7（2025）年8月

環境省 釧路自然環境事務所

報告書概要

1. 業務名

令和7年度知床国立公園ストーリーブック作成にかかる事前調査業務

2. 業務の背景・目的

本業務は、令和6年度知床国立公園知床エコツーリズム戦略改定及び知床の魅力あるストーリー検討業務（以下、令和6年度業務）で作成したストーリー案をストーリーブックにまとめるにあたり、必要な事項を調査・情報収集し、ストーリーブックの品質向上及び内容の充実を図ることを目的として実施した。

3. 業務実施体制

本業務は、環境省からの請負事業として公益財団法人 知床財団が実施した。

4. 業務の実施期間

令和7年5月9日から令和7年8月31日まで

5. 業務の実施内容

(1) 環境省担当官との打合せ

業務の実施に当たって7月3日、7月24日、8月18日に計3回の業務実施に関する打合せを行った。

(2) ワークショップ参加者へのフォローアップ

ストーリーブックの作成に際して、令和6年度業務で実施したワークショップ参加者の継続的な関与を促すため、令和6年度業務の報告書、ワークショップ開催結果及び今後の予定についてとりまとめたレポートブックを作成し、メール等で共有した。

(3) ストーリー案の再確認

令和6年度業務で作成したストーリー案は、地域関係者や住民の意見を中心にまとめているため、国立公園らしさを伝える観点でストーリーの数、分量及びバランスを精査し、全体の最適化を図った。また、実際の利用状況や利用実態を踏まえたマトリクス分析などを行い、情報整理を行った。

(4) 観光庁事業との整合

環境省担当者からひがし北海道における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業（以下、観光庁事業という）の進捗と環境省事業との調整状況の情報提供を受け、観光庁事業で作成した知床のストーリーを把握した。また、ストーリーブックの作成にあた

り、観光庁事業で作成した知床のストーリーとの関係性や統合可能性に関する検討を行い、(3)において情報整理を行った。

(5) 事例調査

作成したストーリーは、知床国立公園のインタープリテーション全体計画への反映を検討していることから、全国の先行事例を調査し、各地域で策定されたインタープリテーション全体計画を収集した。収集した先行事例は、計画の構成、体制などを整理し、本地域の参考となるポイントを整理し、比較分析を行った。

目次

第1章	業務実施に係る打合せ.....	1
第2章	ワークショップ参加者へのフォローアップ.....	2
第3章	ストーリー案の再確認.....	3
1.	ストーリー案とそのカテゴリ分類.....	3
2.	地区区分に着目したストーリー案の分析.....	5
3.	アクティビティや体験に着目した分析.....	9
4.	観光庁事業との関係性の整理.....	11
5.	マトリクス分析.....	15
6.	考察.....	16
第4章	事例調査.....	18
1.	日本におけるIP全体計画の位置づけ.....	18
2.	事例調査.....	19
3.	知床版IP全体計画（ストーリーブック）の構成について.....	24
巻末資料1	打合せ記録簿（第1回～第3回）	
巻末資料2	シレットコのコトレポートブック	

第1章 業務実施に係る打合せ

業務の実施に当たり環境省担当官と密に連絡調整を行い、環境省担当官の指示に従って進めるため、7月3日、7月24日、8月18日に計3回の業務実施打合せを行った。打合せ記録簿を巻末資料1に収録した。

第2章 ワークショップ参加者へのフォローアップ

令和6年度業務で実施したワークショップ参加者の継続的な関与を促すため、ワークショップの開催結果やその成果、今後の予定等を取りまとめた報告書（レポートブックという）を作成した（図2-1）。レポートブックは巻末資料2に収録した。

レポートブックは全16ページとし、以下の内容で構成した。

- ① 業務についての概要説明
- ② 各WS会場のレポート（Web ブログ再編）
- ③ 9つのストーリーのたまご
- ④ 今後の予定

作成したレポートブックは、web サイト等に掲載するとともに、昨年度のワークショップ参加者にメール等で送付した。



図 2-1 シレットコのコトレポートブックの表紙とコンテンツの例

第3章 ストーリー案の再確認

本章では、令和6年度業務で作成した「ストーリーたまご（以下、ストーリー案という）」について、国立公園らしさを伝える観点でストーリーの数、分量及びバランスを精査し、全体の最適化についての検討を行う。検討にあたっては、国立公園の地区区分との関係性や実際の利用実態を踏まえたアクティビティや自然体験プログラムとの関係性に着目した分析を行い、その結果を考察する。

また、並行して進行する関連事業である「ひがし北海道における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」において作成されたストーリーとの比較分析も行い、その類似点や過不足を考察し、両者の整合性や統合可能性について検討を行う。

1. ストーリー案とそのカテゴリ分類

令和6年度業務で作成したストーリー案は、3つのエリア（斜里、ウトロ、羅臼）で開催したワークショップにおいて抽出された地域資源を整理し、その価値を言語化したものである。ストーリー案は「自然」「地理・地形」「伝統・文化・歴史」「産業・暮らし・食」の4つのカテゴリに分類されており、合計9つの案が起草された。また、ストーリー案の見出しとして「テーマ」が付与されている。ストーリー案のテーマとカテゴリを表3-1に示す。

カテゴリ別にみると、「自然」が2件、「地理・地形」が2件、「伝統・文化・歴史」が3件、「産業・暮らし・食」が2件とバランスよく整理されているが、実際はそれぞれのストーリーは、単一のカテゴリに納まらず横断的であるため、便宜的な分類とするのが妥当である。

表 3-1 令和 6 年度業務で作成したストーリー案のテーマとキーワード、カテゴリ分類

整理番号	ストーリー案のテーマ	キーワード	カテゴリ			
			自然	地理 地形	伝統 文化 歴史	産業 暮らし 食
#1_流水	知床には、流水からはじまる命の循環、流水が繋ぐ命がある。	生態系,海域,漁業,食物連鎖	○			
#2_火山	火山が生み出した奇跡のアクティビティ「カムイワッカ湯の滝登り」。	温泉,アクティビティ,地球科学		○		
#3_100 m ² 運動	クラウドファンディングのはしり「しれとこ 100 平方メートル運動」	持続可能性,ナショナルトラスト,ボランティア			○	
#4_ロマン	知床では先人たちの「ロマン」の軌跡を辿ることができる。	遺跡,アイヌ文化,オホーツク文化,祭り,開拓			○	
#5_産業	漁業、農業を担う人々の顔が見えるまち「知床」で味わう最高の贅沢	海産物,農作物,食糧生産				○
#6_生物の多様性	陸の王者ヒグマ、海の王者シャチ、空の王者オオワシ、自然の王者が集う知床。 流水から始まる豊かな生態系の循環のなかに、来訪者は身を置くことで、人間も自然のサイクルの一部ということを再確認し、自らを知り・生の実感を得ることができる。	食物連鎖,アイスアルジー,新種,伝統文化	○			
#7_急峻な地形	ルサの強風やそこからの景色に代表されるような極端な天候や急峻な地形は知床ならではの山・川・海そして太陽の繋がりをもち、人間の五感すべてに訴えかけてくる。来訪者は五感を開放し、能動的に動く力強さを得ることができる。	出し風,羅臼おろし,知床横断道路,知床岬		○		
#8_漁師と猟師	極めて厳しい自然の中で「りょう」を生業とする漁師と猟師は、長い時間をかけて紡いできた誇りと共に、潮の匂い・血の匂いにまみれて生きている。「りょう」から食卓まで境界線がなく、来訪者は生命を五感で味わう体験ができる。	火山活動,根室海峡,海鮮工房,知恵			○	
#9_自然と暮らし	オホーツク文化から続く、自然と密着した四季折々の極めて特徴的な暮らしがある。来訪者はさまざまな景色・食事・人の営みを楽しむことができ、訪れるたびに知らない体験ができる。	オホーツク文化,国後島,海の四季,海水温				○

2. 地区区分に着目したストーリー案の分析

1) 地区区分

本節では、各ストーリーに紐づく場所性に着目した分析を行う。ストーリーブックの対象地域は、知床半島全域（知床国立公園とその周辺地域）である。2つの自治体を抱合し、国立公園の内外が含まれる広域であることから、地域的なバランスについての検討が必要である。ストーリーを実際の体験やプログラムに落とし込んでいくにあたって、特定のエリアや観光サイトに偏っていることは望ましくない。

ここでは、知床半島の地区区分として環境省による「2021年度知床世界自然遺産地域における“半島一体型”コンテンツ提供体制・計画策定検討業務（以下、コンテンツ業務という。）」において用いられた9ゾーンの地区区分を援用した分析を行う。これは、同業務において「知床半島のランドデザイン」を提案するにあたり用いた区分で、国立公園管理計画等の既存計画の枠組みを基礎としながら、実際の利用導線や利用実態に即しつつ国立公園外も対象としており、本分析に適するものと考えられる。地区区分の考え方を表3-2に、区分図を図3-1にそれぞれ示す。

2) 分析の方法

各ストーリー案で言及されている資源の位置する場所や地域、またはそれらを体験できる場について、前項で示す9つの地区区分との関係性を整理したのが表3-3である。

分析にあたって留意が必要な点は、第1にそもそも特定の地区や場所との関係性があまりないストーリーがある点である。第2は広域であったり、多数の地区に該当したりするストーリーがある点である。

これらの課題については、「知床半島全域」の項目を追加するとともに、関係性の強弱を評価しながら単一ではなく複数を選択する分析を行った。

3) 分析の結果

「#1 流氷」「#4 ロマン」「#9 自然と暮らし」は知床半島全域が対象となった。生態系や生活に関するストーリーは広域となったり、特定の地区には結びつかなくなったりする傾向がある。また、流氷については、視対象である流氷（＝海）に加え、それを眺める場所（視点場）が間接的に関係する場として抽出された。「#2 火山（カムイワッカ）」や「#3 100㎡運動」などは、特定の場との関係性が強かった。

また、多くのストーリー案が「⑦ウトロ地区、羅臼市街地」「⑥幌別・岩尾別地区」などの利用者の多い地区との関係性が見出された。また、「②沿岸海域」と結びつくストーリー案も多い。一方で、「①先端部地区」「③ルシャ」「④知床連山」「⑤知西別岳周辺」などに直接関係するストーリー案はほとんどなかった。また、利用者の最も多い知床五湖に関連するストーリーもない。なお、斜里・羅臼間については比較的バランスよく取り上げられている印象である。

表 3-2 2021 年度コンテンツ業務による地区区分の考え方¹

国立公園管理計画の区分	コンテンツ業務の地区区分	利用のイメージ	想定されるコンテンツの例
i. 先端部地区	①先端部地区全域	世界にPRする冒険と原生の旅	・海岸トレッキング(主に羅臼側) ・半島周回カヤッキング ・バリエーション登山と沢登り(登山)
	②先端部地区沿岸海域	シャチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流水が創り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる	各種観光船による周遊
	③ルシャ地区	知床版野生動物観光の核心	・知床版野生動物観光の場 ・野生との共存の可能性を普及する自然教育
ii. 知床連山地区	④知床連山地区	知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場	・登山
iii. 知西別岳及びその周辺地区	⑤知西別岳及びその周辺地区	静寂を感じる知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールド	・バックカントリースキー ・スノーシュートレッキング
iv. ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ・羅臼湖・知床横断道路沿線地区	⑥ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ	多様な体験ニーズに応えるサステイナブルの入り口。アドベンチャーツアーの拠点。	・知床五湖園地での風景探勝、散策 ・冬季利用の充実 ・ホロベツ園地を起点としたトレッキング、冬季利用、サイクリング ・シャトルバスによる周遊、風景探勝、動物観察 ・カムイワッカ園地における沢登り、トレッキング、ジオツアー、ポルダリング ・幌別川河口サケマス釣り
	⑦国立公園エントランスエリアおよび羅臼湖・横断道路沿線地域	上質な滞在基地を起点とした多様なアクティビティとビューポイント、手軽な体験	・観光バス、マイカーによる横断道路の周遊観光 ・羅臼湖やボンホロ沼トレッキング ・ウトロ地区でのまち歩き ・クマ越えの滝、湯ノ沢園地などの散策 ・ヒルクライム&ダウンヒルのサイクリング ・滞在型アクティビティやキャンプ、知床ならではの食の提供
v. ルサ・相泊間の道路沿線地区	⑧ルサ・相泊間の道路沿線、及び、観音岩以南の先端部地区	番屋の営み、フィッシャリーターリズム	・コンブ漁体験や番屋暮らし体験 ・ルサ地区でのサケマス観察 ・河口&海岸マス釣り ・日帰り海岸トレッキング
-	⑨半島基部 斜里岳・海別岳山麓	雄大な田園景観と知床半島の背景の組み合わせは感動を呼ぶ	・田園景観を基調としたビューポイント ・ワーケーションやテレワーク ・道路沿線での猛禽類、サケ科魚類の観察

¹ 環境省,2021 年度知床世界自然遺産地域における“半島一体型”コンテンツ提供体制・計画策定検討業務報告書 p.153 より一部改変

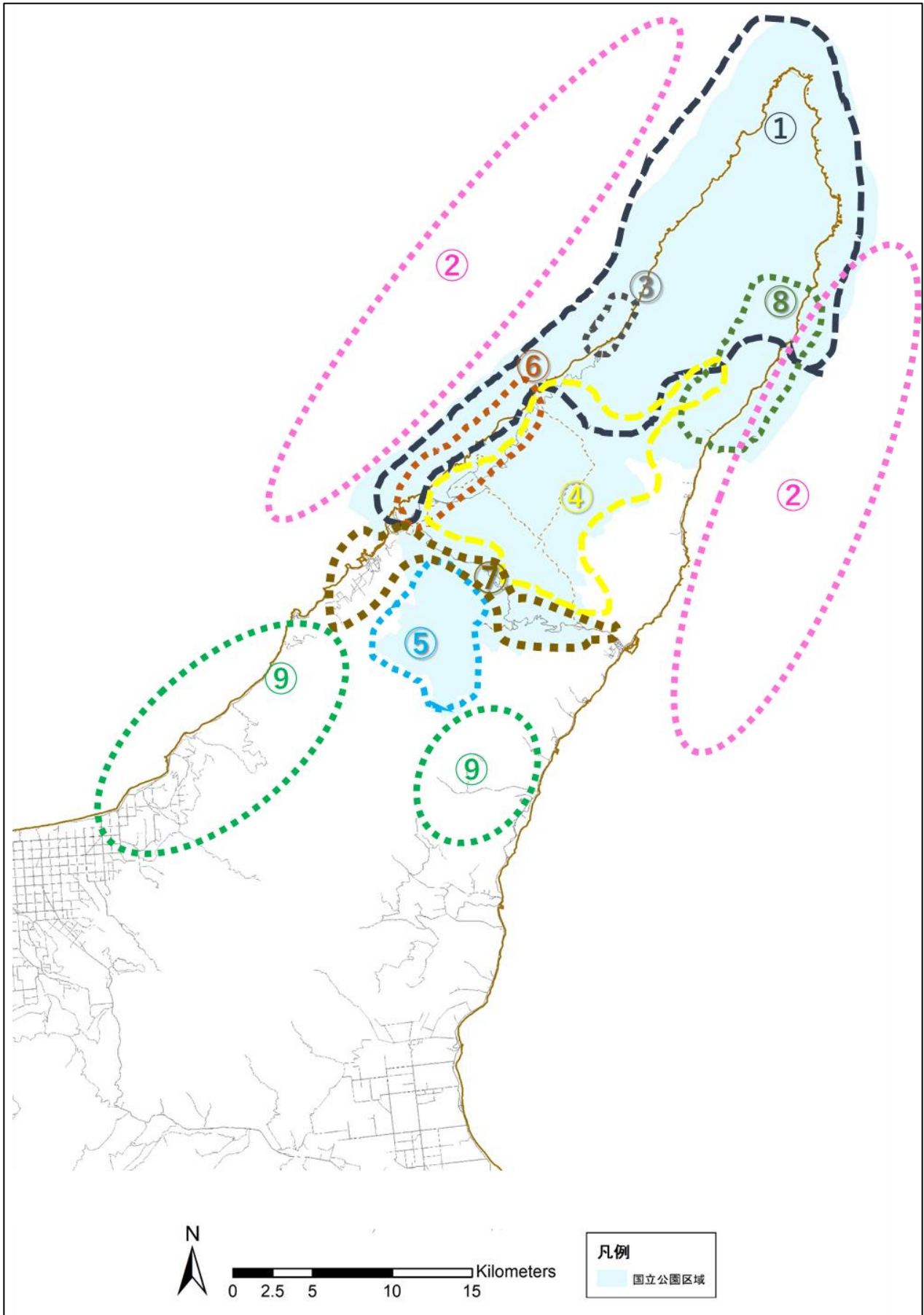


図 3-1 知床半島全体の地区区分

表 3-3 ストーリー案と地区区分との関係性

ストーリー案	①先端部地区 全域	②先端部沿岸 海域	③ルシャ	④知床連山	⑤知西別岳と 周辺地区	⑥ホロベツ 知床五湖 カムイワッカ	⑦エントランス 羅臼湖 横断道路沿線	⑧ルサ・相泊 間道路 観音岩以南の 先端部地区	⑨半島基部 斜里岳 海別岳山麓	知床半島 全域
#1_流水		○				○	○	○	○	◎
#2_火山				○		◎				
#3_100 m ² 運動						◎				
#4_ロマン							○		○	◎
#5_産業							○		◎	
#6_生物の多様性		◎					○	○		
#7_急峻な地形	○			○			○	◎		
#8_漁師と猟師		○					◎	○		
#9_自然と暮らし		○					○			◎

◎ 直接関係する場所や地域

○ 間接的に関係する場所や地域

3. アクティビティや体験に着目した分析

1) 分析の方法

ストーリーの策定にあたっては、それをどのように実際に体験させるか、という観点
が重要である。本節では、各ストーリー案を実際に体験することのできる観光スポット
や体験プログラム等との関係性について分析を行う。

分析にあたっては、コンテンツ業務で抽出された知床地域における観光スポット²やア
クティビティ、自然体験プログラム³等のデータベースを用い、ストーリー案と関係性の
強いと考えられるコンテンツを抽出し、表 3-4 にとりまとめた。

2) 分析の結果

特定のコンテンツとの結びつきが強いストーリー案

「#2_火山」「#3_100 m²運動」「#7_急峻な地形」などのストーリー案は、特定のフ
ィールドとの結びつきが強く、トレッキング、沢登り、登山、ドライブと言ったアクティ
ビティを通じた体験が可能である。

一方、実際にストーリーを体験するためには、なんらかのガイダンスが不可欠である
が、こうした情報が十分に提供されているかは別途検討が必要である。

季節性が強いストーリー案

「#1_流氷」「#5_産業」「#6_生物の多様性」などのストーリー案は、その体験が特定
の時期に限定されることが特徴である。自然体験プログラムも通年催行されず限定的で
ある。また、野生動物の観察などはその時々気象条件やタイミングにも左右される。

一方、季節や機会が限定されるストーリーは体験価値も高く、旅行の目的にもなりう
ることから、戦略的に活用する観点が必要である。

コンテンツの供給が弱いストーリー案

「#4_ロマン」「#8_漁師と猟師」「#9_自然と暮らし」などのストーリー案は、産業や
食、歴史等のカテゴリに分類されるが、これらは単純にアクティビティに参加したり、
風景を堪能したりするだけでは体験できない。ビジターセンターでの展示等を除けば、
観光コンテンツとの結びつきも弱い。文化観光等のプログラム開発や飲食やお土産など
へのストーリーの付加などが必要と考えられる。

² コンテンツ業務報告書 第2章2節「観光スポットの収集と整理」 pp.60-77.

³ コンテンツ業務報告書 第2章3節「自然体験プログラムの収集と整理・分類」 pp.78-104.

表 3-4 ストーリー案とアクティビティや体験プログラムとの関係性

ストーリー案	観光スポット	対象となるアクティビティ	自然体験等プログラムの例
#1_流氷	プユニ岬、フレペの滝（乙女の涙） 羅臼国後展望塔	・トレッキング ・スノートレッキング ・観光船 ・流氷体験 ・ダイビング	・フレペの滝スノーシュー ・知床半島クルージング ・シャチ、クジラ、イルカクルーズ ・流氷ダイビング ・流氷&バードウォッチングクルーズ ・流氷ウォーク
#2_火山	カムイワッカ湯の滝、硫黄山登山道、旧硫黄採掘地	・沢登り ・日帰り登山、縦走登山	・カムイワッカ湯ノ滝のぼり ・硫黄山登山、新噴火口ツアー
#3_100㎡運動	知床自然センター、しれとこ100平方メートル運動の森 フレペの滝（乙女の涙）、知床五湖	・トレッキング ・スノートレッキング	・フレペの滝遊歩道ツアー ・知床五湖地上遊歩道大ループツアー ・原生林ツアー
#4_ロマン	チャシコツ崎、松浦武四郎翁顕彰碑、オロンコ岩、知床博物館 羅臼郷土資料館、ルサフィールドハウス	・観光船 ・文化財めぐり、まちあるき	・産業文化歴史ツアー ・斜里ねぶた ・シャチ、クジラ、イルカクルーズ
#5_産業	ペレケ川河畔公園、ウトロ漁港・ウトロ鮭テラス 遠音別川サケマス遡上観察施設、天に続く道 羅臼漁港、ルサフィールドハウス、道の駅 知床・らうす	・サケマス観察 ・飲食体験	・鮭の水揚げ見学&サケ遡上観察ツアー ・サケ釣り体験ツアー
#6_生物の多様性	知床五湖、知床世界遺産センター クジラの見える丘公園・羅臼灯台、道の駅 知床・らうす	・観光船 ・飲食体験	・シャチ、クジラ、イルカクルーズ ・知床岬&ヒグマボートクルーズ ・昆布番屋ツアー
#7_急峻な地形	知床横断道路、知床岬 知床世界遺産ルサフィールドハウス	・ドライブ ・観光船 ・登山 ・トレッキング	・知床半島クルージング ・登山ツアー ・羅臼湖ツアー
#8_漁師と猟師	ウトロ漁港・ウトロ鮭テラス、道の駅 うとろシリエトク 羅臼漁港、道の駅 知床・らうす	・サケマス観察 ・飲食体験	・鮭の水揚げ見学&サケ遡上観察ツアー ・サケ釣り体験ツアー ・昆布番屋ツアー
#9_自然と暮らし	ペレケ川河畔公園、夕陽台、オロンコ岩、知床海岸 熊の湯、しおかぜ公園、相泊温泉	・トレッキング ・カヤック	・シーカヤックツアー ・海岸線トレッキング

4. 観光庁事業との関係性の整理

観光庁は、訪日旅行における消費単価が高い傾向にある高付加価値旅行者の地方への誘客を促進するため、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業（以下、観光庁事業という）」に取り組み、総合的な施策を集中的に講じるモデル観光地を選定している。

ひがし北海道地区は、同事業のモデル観光地に選定されており、一般社団法人ひがし北海道自然美への道DMOがマスタープランを策定し、各種施策を実施している。同事業においては、ディスティネーションブランディングの核となるブランドコンセプトが重要とされており、2024年度からは知床地区を対象としたコンセプトメイキングのためのファクト調査とストーリーの構築に取り組んでいる。

本設では、観光庁事業で作成されたストーリーと本業務におけるストーリーの比較分析を行い、その類似点や過不足を考察し、両者の整合性や統合可能性について検討を行う。

1) 観光庁事業によるストーリーの概要

観光庁事業によるテーマとストーリーを表3-5、表3-6に示す。7つのテーマから構成され、全38ページとそのボリュームも大きい。各テーマは、3～6のストーリーから構成されている。また、専門の事業者（テレビ番組等の制作会社）の取材により策定していることも特徴的である。

ストーリーをカテゴリ別に分類すると、「自然」が11件、「地理地形」が6件、「伝統、歴史、文化」が13件、「産業・暮らし」が6件となった（一部重複を含む）。

2) 観光庁事業と本業務におけるストーリー（テーマ）の比較分析

観光庁事業と本業務におけるテーマの相互の関係性を表3-7に示す。

内容や視点がほぼ同一のテーマ

本業務のストーリー案のうち「#1 流水」「#2 火山」「#4 ロマン」「#7 急峻な地形」については、観光庁事業においてもほぼ同じ観点での記述があり、相関性の高いストーリーと考えられる。ただし、観光庁事業におけるストーリーはボリュームが多いため、より詳細な内容や科学的な知見やメカニズムに関する解説が豊富である。

内容が一部重複するテーマ

本業務のストーリー案のうち「#3 100㎡運動」「#5 産業」「#6 生物多様性」については、観光庁事業におけるそれと部分的に内容が重複していた。一方、テーマの視点や対象とする範囲については相違もあった。

あまり関連性のないテーマ

本業務のストーリー案のうち「#8 漁師と猟師」「#9 自然と暮らし」、観光庁業務における「②知床五湖」「③ヒグマ王国ルシャ」についてはほとんど関連性がなく、独立したテーマであった。

表 3-5 観光庁事業におけるストーリーとそのカテゴリ分類①

観光庁事業によるテーマとストーリー (カッコ内は略称を表す)		キーワード	カテゴリ			
			自然	地理 地形	伝統 文化 歴史	産業 暮らし 食
①_まるごと溶岩 火山が生んだ知床半島 (知床の成立ち)						
1-1	火山活動で誕生した知床半島	海底火山、プレートテクトニクス、噴火活動、溶岩流、縦走路		○		
1-2	知床連山を挟んで“別の顔”	斜里と羅臼の地形、知床横断道路、知床峠、気象		○		
1-3	幌別川が“境界”	開拓と溶岩台地、ウトロ漁港、		○	○	
②_縄文人も驚いた!? 知床硫黄山の噴火で生まれた絶景 知床五湖 (知床五湖)						
2-1	絶景を楽しめる高架木道	バリアフリー、電気柵、植生保護、ヒグマ対策	○			
2-2	知床硫黄山の噴火で生まれた凸凹地形、縄文人は見た!そして逃げた!?	山体崩壊、流れ山地形、縄文人		○		
2-3	凹みに水がたまり植物が再生、倒木から育つ“木の赤ちゃん”	湖の成り立ち、倒木更新	○	○		
2-4	開拓跡地が森になるのはいつ?	入植、放牧地、スイレン、植樹			○	
③_ヒグマとヒトと 1200年の物語 (ヒグマと歴史)						
3-1	流水と共にやってきたオホーツク人、なぜ、断崖絶壁のカメ岩に住んだの?	チャシコツ崎、クマのミニチュア、海洋民族			○	
3-2	オホーツク人にとってクマは“神様”	骨塚、オホーツク人の食料			○	
3-3	アイヌの自然観はオホーツク人から引き継がれた	キムンカムイ、クマおくり			○	
3-4	ヒグマが“駆除”される存在に!	和人、明治期、オオカミ			○	
3-5	ヒグマのいる知床	春グマ駆除、ヒグマの頭数や密度	○			○
④_流水と知床の海 (流水と海)						
4-1	世界にここだけ!密集地だからこそその流水ウォーク	流水の起源と流路、漁業と流水	○			
4-2	知床岬を回り込んで羅臼へ、流水がコンブを育てるお手伝い	流水の厚み、羅臼昆布、磯掃除、流水と栄養塩類	○			○
4-3	流水とともにやってくるアザラシ、研究者も注目 シャチに会える羅臼	アザラシの繁殖、カモイウンペ、シャチの食性、レブンカムイ	○			
4-4	“深海のハンター マッコウクジラ”を支える豊かな海	深海生態系、深海生態系、オキアミ、鉄分、深海魚、新種	○			

表 3-6 観光庁事業におけるストーリーとそのカテゴリ分類②

観光庁事業によるテーマとストーリー (カッコ内は略称を表す)		キーワード	カテゴリ			
			自然	地理 地形	伝統 文化 歴史	産業 暮らし 食
⑤_知床をつくってきた先人たち (人の歴史)						
5-1	人気の絶景 実は農業開拓の痕跡	天に続く道、基線、斜里平野、排水路、暗渠			○	○
5-2	水が決め手で移住 斜里農業の先駆者・鈴木養太	仙台藩、皆月善六、小豆、朱円の桜、でんぶん、ポテチ			○	○
5-3	サケの水揚げ日本一！ 迫力ある水揚げを体感	鮭テラス、泉田庄蔵、孵化放流事業、定置網漁、魚道			○	○
5-4	知床の山を知り尽くした男 木下弥三吉	木下小屋、木材生産、知床探勝団、羅臼岳登山道			○	
5-5	“152人の女性”の開拓史	女性史をつくる会、語り継ぐ女の歴史			○	
5-6	「開発」から「自然保護」へ 激動期のリーダー 藤谷豊	高度経済成長、100 平方メートル運動、ナショナルトラスト			○	
⑥_カムイワッカ湯の滝 火山がつくったアクティビティ (カムイワッカ)						
6-1	楽しい体験は火山の恵み！	強酸性、海底火山、蛋白石、安山岩		○		
6-2	世界でも珍しい山 知床硫黄山	世界三大“珍奇”火山、硫黄採掘、皆月善六、知床ドリーム		○		
⑦_ヒグマ王国 ルシヤ (ルシヤ)						
7-1	ヒグマと出会える「ルシヤ」	ヒグマ目撃率、シロザケ、カラフトマス	○			
7-2	サケマスが遡上しやすい川	ダム、ウライ、川底、勾配、産卵環境	○			
7-3	ルシヤで目撃！ ヒグマの驚くべき生態	ヒグマの捕食行動、冬眠	○			
7-4	斜里と羅臼をつなぐ最短ルート	ル・エ・シャニ、ルサ乗越、シャクシャインの戦い			○	
7-5	ヒグマと漁師	番屋、駆除、距離感				○
7-6	ルシヤの川で生態系の下支えするサケマス	ホツチャレ、循環、河川工作物の改修、産卵床	○			

表 3-7 観光庁事業と本業務におけるテーマの相互の関係性

観光庁事業によるストーリー\本業務におけるストーリー案		#1_流氷	#2_火山	#3_100 m ² 運動	#4_ロマン	#5_産業	#6_生物の多様性	#7_急峻な地形	#8_漁師と猟師	#9_自然と暮らし
①	まるごと溶岩 火山が生んだ知床半島	-	△ ≠	-	-	-	-	◎ ←	△ ≠	-
②	縄文人も驚いた!? 知床硫黄山の噴火でうまれた絶景 知床五湖	-	△ ←	△ ≠	-	-	-	-	-	-
③	ヒグマとヒトと 1200年の物語	-	-	-	◎ ≡	-	-	-	-	△ ≠
④	流氷と知床の海	◎ ≡	-	-	△ ≠	-	○ ≡	-	-	-
⑤	知床をつくってきた先人たち	-	-	○ ←	-	○ ≠	-	-	-	-
⑥	カムイワッカ湯の滝 火山がつくったアクティビティ	-	◎ ←	-	-	-	-	-	-	-
⑦	ヒグマ王国 ルシャ	-	-	-	-	-	△ ≠	△ ≠	-	-

凡例 ◎：テーマがほぼ同一 ○：テーマ性が近い △：テーマは異なるが関係する

←：観光庁事業のストーリーがより詳細 ↑：環境省のストーリー案がより詳細 ≡：ストーリーの内容がほぼ重複する ≠：記述内容や視点が異なる y

5. マトリクス分析

前節までの分析結果を踏まえ、「場所性」と「資源性」に着目したマトリクス分析を行った。縦軸はストーリーが具体的な地区や観光サイトに紐づく内容かどうかに関する評価軸である。横軸はストーリーが人文科学的な内容か自然科学的な内容化かに関する評価軸である。これら2軸で構成された4象限マトリクスに、本業務のストーリー案と観光庁業務によるストーリーをプロットしたのが図3-2である。

全体として、4象限すべてに各ストーリーがプロットされており、全体のバランスはおおむね良好と評価できる。各象限に着目すると、第2象限（場所性低い×自然科学的）は地質や流氷といった要素がプロットされた。これらは知床の本質的な価値を説明する前提ともいえるストーリーであり、あらゆるインタープリテーションの場面で活用可能である。

多数のストーリーが第1象限（場所性低い×人文科学的）から第4象限（場所性高い×自然科学的）にプロットされた。歴史・文化的なストーリーは特定の場所との結びつきが弱いことが示唆された。どのように文化財や観光サイトと関連付けるかが課題となる。一方、自然や地質に関するストーリーは、それらを観察する場所との関連性が高いことから、こうした場におけるストーリーのプログラム化が重要と考えられる。

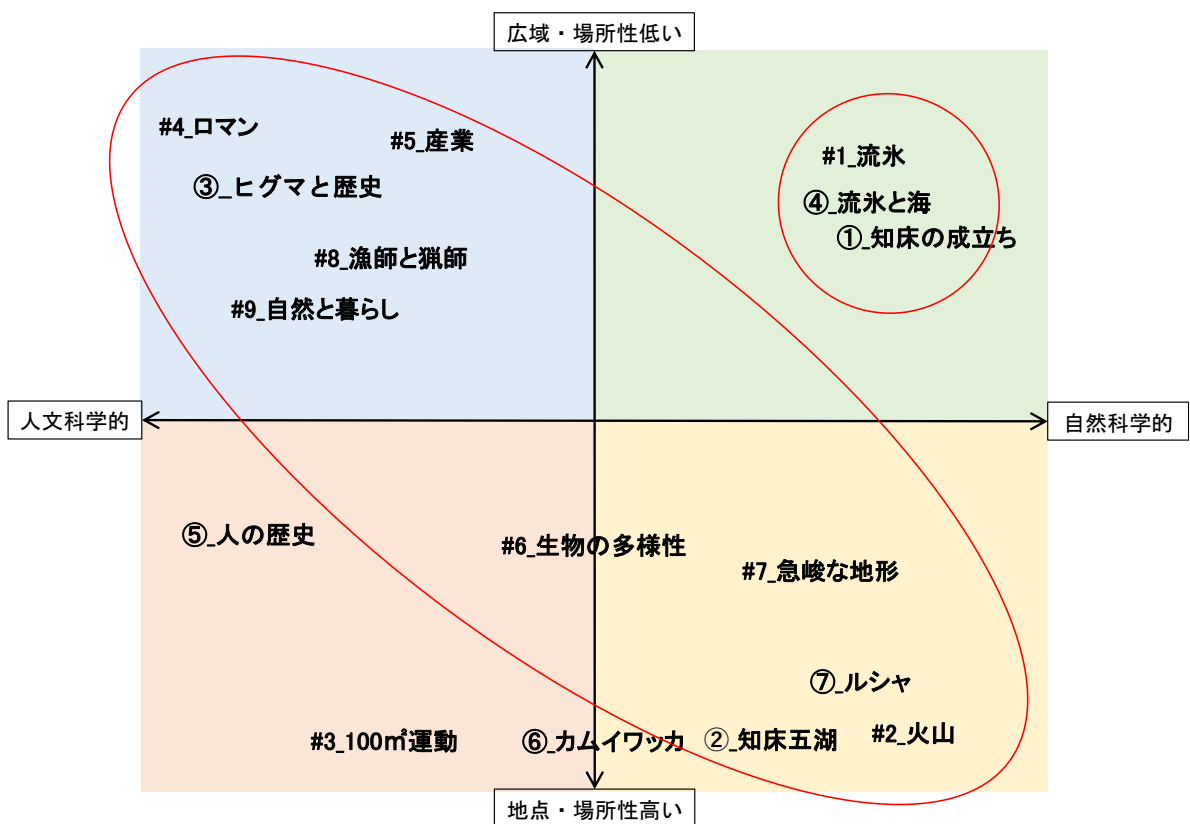


図 3-2 ストーリーのマトリクス分析

6. 考察

地域バランス

斜里と羅臼の両自治体のバランスは概ね良好であった。地区区分別には、知床岬を含む先端部地区や知床連山地区、ルシャなどの利用の実態が僅少な地区を対象としたストーリーが乏しいことが明らかとなった。これらの地区については、住民等のワークショップ参加者にとっても身近ではないことに加え、実際の体験との結びつきを確保することが難しいことも要因と考えられる。一方、これらの地区は知床の原生的な自然を代表するエリアでもあり、その価値をストーリー化する重要性は高いものと考えられる。これらは、「#2 火山」や「#7 急峻な地形」といったテーマのストーリー案に追補し、発展させることも一案である。

また、多くの利用者が訪れる知床五湖やホロベツ地区、羅臼湖等についてもストーリー化されていない。これらの地区では、利用の制度やヒグマとの共存に向けた取組みも進んでいる。国立公園における保護と利用の好循環を目標とした取組み自体もストーリーになり得る。

人と野生動物との関係性

知床国立公園の特徴であり、課題ともいえる野生動物と人との関係性に言及したストーリー案も少ない。特に、ヒグマについては関心も高く、利用者に伝える共通のメッセージも必要である。また、軋轢の課題や共存に向けた取組みも行われていることから、これらを伝えるストーリーが必要と考えられる。また、身近で観察が容易なエゾシカや中小哺乳類などもストーリーになり得る。

その他、ストーリー化の可能性のある資源

ストーリー案では充分触れられていないものの、知床らしさを構成するストーリー化が期待できるその他の要素を以下に列挙した。これらは、独立してストーリー化するよりも、既存のストーリーと組み合わせ、サイドストーリーとして紹介することも一案である。

- ・ 陸と海を繋ぐ河川の役割と河川工作物改修の取り組み
- ・ 気象現象や星空といった「空」を対象としたストーリー
- ・ 希少種や固有種といった生物多様性に係るストーリー
- ・ 世界遺産や国立公園などの自然保護区としての歴史や取り組み

アクティビティやプログラムとの関係性

歴史や文化に、暮らしに係るストーリー案は比較的充実しているものの、実際の体験やプログラムへの落とし込みが不十分と考えられた。まち歩きや文化観光などをテーマとしたプログラムの開発が求められる。飲食等をもっとも直観的な体験として期待される場所であり、工夫の余地も大きい。また、既存のアクティビティやプログラムにこうした要素を付け加えることも有意義と考えられる。

ガイドツアーや観光船等の自然体験プログラム等は比較的充実しているものの、重要な価値をストーリーとして伝えられているかはガイドや事業者のスキルによる部分が多い。

これについては、ストーリーブックの活用によるフィードバックが期待できる。

風景探勝や登山、トレッキング、ドライブ、温泉といった利用者個人によるアクティビティについてもストーリーを通じたより深い体験の提供が望まれる。これについても、ストーリーブックを活用したパンフレットや案内解説の作成やビジターセンター等での案内が求められる。

観光庁事業との関係

観光庁事業によるストーリーは、重複する内容も多い一方、ヒグマやルシャといった独自のテーマもあり、本事業によるストーリー案の不足要素を補うことが期待できる。また、観光庁事業のそれは、より網羅的でボリュームもあり、解説的な性格が強いことが特徴である。両者は単純に統合するのではなく、ストーリーブックの作成にあたっては、地域主体のストーリー案を活かしつつ、その解説やサイドストーリーとして観光庁事業のそれを補足的に活用することが有用と考えられる。

第4章 事例調査

本章では、知床版のインタープリテーション全体計画（以下、IP 全体計画という）作成にあたり、わが国の IP 全体計画の位置づけについて考察する。さらに、全国の先行事例を対象に、各地域で策定されたインタープリテーション全体計画を収集・分析する。分析にあたっては、計画の構成や策定体制、デザインなどに着目した比較を行い参考となるポイントを抽出し考察する。

1. 日本における IP 全体計画の位置づけ

IP 全体計画は、アメリカの国立公園が起源とされている。アメリカでは国立公園の管理計画の個別計画として包括的なインタープリテーション計画（Comprehensive Interpretation Plan）が管理当局により公園毎に策定されている。

IP 全体計画の位置づけについての日米比較を表 4-1 に示す。法定計画として取り扱われるアメリカと比較し、わが国では取組み自体の歴史も浅く、定まったガイドラインや手順はほぼないのが現状である。一方、任意計画であることから自由度は高い。また、魅力や価値をストーリーとして整理すること、地域住民等の参加によるボトムアップ型の策定プロセスを重視することがわが国の特徴である。

表 4-1 IP 全体計画の位置づけに関する日米比較

	アメリカ	日本
計画の位置づけ	法定計画	任意計画であり法定計画との関係性は曖昧
策定の動機・出発点	法律で義務付けられている	自発的
構成や内容	法的に定められたガイドラインに従う	任意性が高く自由。 ガイドラインなどはない
策定主体	公園管理者 (National Park Service)	公的セクターや観光協会など さまざま
対象者	職員と専門家	住民、利害関係者等幅広い
策定体制・プロセス	内部的に取りまとめられる	ボトムアップ、協働型のプロセスを 重視し、強調する
内容の重点	科学的な価値を重視	魅力や資源の価値を重視
観光的な意義	重視しない	観光的、経済的な意義を重視する
デザイン	テキストが豊富	画像やイラストが豊富

2. 事例調査

1) とりまとめの方法

IP 全体計画の策定について他地域の専攻事例を収集した。主に以下を基準として収集を行い、計 6 事例についてとりまとめた。

- ① 国立公園を主対象として含むこと
- ② 施設単位などではなく、地区・地域以上の範囲を対象としていること
- ③ 完成し、公開されていること
- ④ 地域的に偏らず、島しょや山岳、海域など国立公園タイプのバランスを考慮すること

とりまとめにあたっては、収集した IP 全体計画の成果物について、「策定体制」「目的・ねらい」「構成」「デザイン」に着目した整理を行った。取りまとめの結果を表 4-2 に示す。

2) とりまとめの結果と考察

タイトルと対象地域

メインタイトル+サブタイトルとする例が多い。また、「ストーリー集」「ストーリーブック」などの名称が入る例が多かった。「インタープリテーション全体計画」の用語を入れる例は少ない。

対象地域については、国立公園の一部地域や地区を対象とする例（那須、雲仙など）と、国立公園全域を対象とする例（吉野熊野など）とがある。面積的な広がりは多様であるが、地図などで対象範囲を図示している例は少なかった。本事業では、公園全体を対象とし、公園外も抱合することから、国立公園全域を対象とする事例が参考になると考えられる。

策定主体や策定プロセス

策定主体は、国立公園の管理者自らが策定する場合（富士山、吉野熊野）、観光協会や DMO などの観光推進団体が策定する場合（雲仙国見、那須）、複数団体が共同で事務局となる場合（日光）などがあった。策定主体については、策定時だけでなくその後の改定や運用の主体としての役割も期待されるため、継続性の観点からの分析が重要と考えられる。

しかし、いずれの事例も策定から間もないため、具体的な活用に関する知見は得られていない。

構成とストーリーの数

構成についても多様であり、定まった形式などは見受けられないが、ストーリーがコンテンツの核となっていることは共通している。ストーリーは通常、3~4 程度のテーマ（カテゴリ）別に紹介されている例が多い。ストーリー数は 10 から最大 20 程度紹介されていた。

また、構成においてはねらいや目的、対象者や体験してほしい内容、活用方法に関する情報（インタープリテーションの方法やメディア）、来訪者分析、資源調査の結果や地理的情報、策定プロセスや策定体制、索引などのコンテンツが盛り込まれている例が見受けられた。これらの付帯的な情報は、IP 全体計画の位置づけを明らかにし、活用を図るうえで極めて重要と考えられた。

ボリュームとデザイン

判型は A4 サイズが多く、縦横のレイアウトそれぞれに分かれた。ページ数は約 25 ページから約 65 ページを倍以上の開きがある。

デザインについては、ビジュアルを重視した編集としていることは全てに共通しており、いわゆる行政的な計画書にみられる無味乾燥なテキスト中心の事例はなかった。イラストと写真を使い分ける事例がもっとも多く、インフォデザインなどの図解を効果的に取り入れる事例なども散見された。

3) 特に着目した事例

知床における IP 全体計画の構成を検討するにあたり、特に日光国立公園における事例に着目した。同地区における IP 全体計画（奥まで日光を好きになるストーリー集）の構成はストーリーを中心としながらも、その前段に十分な説明やデータが配されており、必要十分な内容が網羅されていると考えられた。また、デザインやテキストも親しみやすく、丁寧である。構成案の検討において特に重要と思われる内容を以下にまとめた。

- 序章でストーリー集を策定する意義やインタープリテーションについて丁寧な解説されている。
- ストーリー集の対象が明確にされており、誰に向けて、何を目指しているのかが明瞭。ボリュームは 65P 程度と長編であるが、中心となる各が 2 本の柱（ストーリーと体験）で整理されておりわかりやすい。
- ストーリーは 21 と多いが、タイトルがカテゴリ別に一覧化されており、興味のある分野から選んで読める。また、写真が多くイメージがわかりやすく、興味も持てる。
- ストーリーに紐づく場所や体験が具体的に示されている。
- 具体的な活用案の提示がある。
- 後半に資料・文献集や Q&A、索引が配されており、データブックとしても有用。

表 4-2 IP 全体計画の先行事例一覧

#	タイトルと対象地域	策定主体と協力体制	目的やねらい	構成(抜粋)	テーマとストーリーの数	冊子情報
1 富士山麓	富士山麓をもっとのしむSTORY 【富士箱根伊豆国立公園】	【策定主体】 富士箱根伊豆国立公園管理事務所 【策定プロセスと協力体制】 特徴的なのは: ・団体名(個人ではなく)であること ・全ての参加団体がリストアップ ・幅広い参加者の業種と団体 (ガイド、アウトドア事業、飲食、環境保全、地域振興、宿泊、観光施設研修施設、人材育成、観光協会、学術・研究機関、行政)	「…お客様をお迎える『すべての関係者の皆様』に向けて、お客様にお伝えしたい、感じていただきたい富士山麓らしさ(富士山麓ならではの魅力・価値)を整理したものです。」	1.富士山麓を「歩く旅」とは 2.全体計画をこんな風につかってほしい 3.重要な資源・富士山麓を訪れるお客様に体験してほしいこと 4.みんなで共有したい価値:富士山麓って何がすごい? 4-1.火山としての富士山と麓の多様な生態系 4-2.富士山と信仰、人々の暮らし 4-3.富士山麓の食の恵み 4-4.感動と学びを得る旅の舞台 5.来訪者分析 6.インタープリテーションメディア 7.参考文献リスト 8.作成に関わった方々	4テーマ 14ストーリー	66P A4版 縦
2 石垣	「自然と暮らしの道しるべ」 石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画 【西表石垣国立公園】	【策定主体】 一般財団法人沖縄県環境科学センター 石垣島アウトフッターユニオン 【策定体制】 管理:平久保半島自治協議会 協力:各公民館、有識者等	p.3: 平久保半島の皆さんが地域の魅力を語り、伝える際に活用できることを重視して作成しました。	1.平久保半島について 2.暮らしと文化のキーワード 3.自然のキーワード 4.私たちは、誰に何を伝えればいいのかの？ 5.自然と暮らしのストーリー 6.もっと知りたい方へ	9ストーリー	24P A4版 横
3 那須	「那須インタープリテーション'sアクション」 那須を大好きになるストーリー集 【日光国立公園】	【策定主体】 一般社団法人 那須町観光協会 【策定体制】 協力:那須町と近隣の皆様、公益社団法人 日本教育フォーラム、一般社団法人 日本インタープリテーション協会、環境省 日光国立公園管理事務所 那須管理事務所 【策定プロセス】 地域住民とのワークショップ4回①地域の魅力を掘り起こす②魅力を物語として伝えるテーマ分をつくる③テーマ文の精査④テーマを再構築	p2:那須の資源をつなげて伝えていくことで、訪れる人々に那須への深い愛着を育んでもらいたい。 p32:地域全体でインタープリテーションをより良いものにし…地域の人々が協力し合いながら、訪れる人々の心に響く素晴らしい物語を奏でられることを目指しています。	1.ストーリーを伝えるための、重要な資源とテーマ 2.インタープリテーション全体計画を活用してこんな風になって欲しい 3-1.自然の圧倒的なポテンシャル-火山の物語 3-2.自然の圧倒的なポテンシャル-水の物語 3-3.暮らしと風土を生み、歴史を紡いできた人のポテンシャル-人の物語 3-4.皇室が愛し地域からも愛された那須のポテンシャル-御用邸の物語 4.那須地区におけるインタープリテーションの目的 5.那須 IP 計画関係団体・関係者	4テーマ 16ストーリー	35P A4版 縦
4 日光	奥まで日光を好きになるストーリー集 【日光国立公園】	【策定主体】 「奥まで日光を好きになるストーリー集づくり」地域事務局 事務局構成 11団体 幅広い業種 【策定体制】 協力:奥日光地域づくり住民協議会、日光国立公園満喫プロジェクト 日光エリア分科会、公益社団法人日本環境教育フォーラム、一般社団法人日本インタープリテーション協会	P2.観光客の方はもちろん、観光事業者も含め、「日光から奥日光まで」好きになってほしい、「日光がもつ奥深い魅力や奥に隠れているストーリー」を知って好きになってほしい。 p5:従業員教育や観光PR、新たな商品・サービスの開発などでご活用いただくことで、日光らしさやその体験の仕方を地元の全員がお伝えできるようになりたい、業種や地区にこだわらず地元の全員が胸を張って地元自慢でいるようになりたい。	1.「奥まで日光を好きになるストーリー集」の活用方法 2.奥まで日光を好きになるストーリー 一覧 2-1.人と歴史 2-2.地形と自然 2-3.季節と風景 3.日光エリアの代表的な資源 4.フェノロジーカレンダー、体験レイアウト 5.日光エリアで体験してもらいたい16の体験 6.お客様からの質問集 7.日光エリアをさらに好きになる資料・文献集 8.索引	3テーマ 21ストーリー	64P A4版 縦
5 吉野熊野	「吉野熊野国立公園ストーリーテリングBOOK」 ～悠久の自然とそこで暮らす人々の姿を未来へと伝えるために～ 【吉野熊野国立公園】	【策定主体】 近畿地方環境事務所 吉野熊野国立公園管理事務所 【策定体制】 アドバイザー:一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会 株式会社wondertrunk & co.	p.6.魅力や価値を形づくる様々な地域資源を、テーマに沿ったストーリーとして伝えることで、吉野熊野国立公園ならではの忘れられない唯一無二の感動を体験し、深く理解することにつなげます。	1.ストーリーのコンセプトイメージ 2.地域資源と聞き手をつなぐ「ストーリー」のねらい 3.基礎知識編:吉野熊野国立公園を知る 4.実践編:ストーリーを語ろう	3テーマ 12ストーリー	24P A4版 横
6 雲仙	「雲仙市国見エリアをもっと好きになるSTORY」 国見らしさ-国見ならではの価値-をお客様と共有するために 【雲仙天草国立公園】	【策定主体】 一般社団法人 雲仙観光局 【策定体制】 協力:国見エリアワーキング参加者の皆様、雲仙市、日本インタープリテーション協会、長崎県立国見高等学校、島原鉄道株式会社	p.3:歴史的な意味や価値を来訪者と共有することで、より楽しんでほしい、国見との結びつきを深めてもらうことが、インタープリテーションの目的です。 p.3:国見の強みである①自然 ②歴史 ③食 ④スポーツの要素を加味したインタープリテーションを実施し、資源と来訪者を結びつけることで観光の活性化を図ります。	1.前書き(インタープリテーションの説明、目的、活用方法) 2.インタープリテーション上、重要な資源 3.国見ならではの価値 3-1.山と海と暮らし 3-2.日常に溶け込む先人からの学び 3-3.豊かすぎる素材と活かす人々 3-4.サッカーが繋いできたまちの絆 4.国見エリアにおける既存の代用的なインタープリテーション・メディア・プログラム	4テーマ 15ストーリー	58P A4版 縦

3-1 富士山麓ならではの個性-3：富士山麓の食の恵み

麺料理

場所も時代も成り立ちも異なる各地の麺料理が、人々の日々の暮らしと胃袋を支えている

耕作に不向きな覆せた土地が広がる富士山麓では、小麦を中心とする食文化が育まれてきました。戦国時代、武田信玄のもとで戦メシとして親しまれた『ほうとう』、織物で賑やかな富士吉田市で織り手の女性を支えるため男性が打ったコシの強い『吉田のうどん』、街の駄菓子屋で製糸工場の女工たちに愛されたもちもちと弾力のある『富士宮やきそば』は、それぞれの地域で暮らしと文化を支えてきました。地元で愛されたこれらの料理は、今も人々の胃と心を満たし、観光客にも愛される地域の名物です。

【インタープリテーションと波及のイメージ】

行政：観光地振興の方針、観光政策

DMO・観光協会・観光案内所：マーケティングプロモーション、情報発信、総合案内

直接お客様と接する方：お客様からの質問や、何気ない会話

ガイド・インタープリター：ガイドツアーや体験プログラムでのガイダンス

富士山麓のみんなでインタープリテーション

宿泊施設：滞在中のご案内、おすすめスポットの紹介

飲食店：地の物をつかった料理とそのしつらえ

お土産屋・道の駅：その場所ならではの商品、名産品・商品POP

交通機関：駅のボスター、タクシーの中での案内

施設（博物館など）：展示、学芸員・スタッフの案内

富士山麓に来なければ味わえなかった感動体験（富士山麓をもっと楽しんで、もっと好きになる）

SNSでの発信、再来訪、お土産などお裾分け

暮らしと文化のキーワード

キビ倒し
サトウキビの収穫作業は冬の風物詩。

ミルク様
海の彼方の菜土から豊年と平和を運んでくる神様。

浜下り
旧暦3月3日に女性が健康を祈願し海で身を清める。

フーカキサバニ
帆に風を受けて進む伝統木造船。

パラグライダー
南東のゆるやかな夏の風で舞い上がる。

マユンガナシ
まじめに働けば果報は必ずやってくると思えにきた神の使者。

田植え
陸福が多かった。東海岸には多良間島の人があつた多良間田がある。

ビーチクリーン
冬の季節風とともにどんどん流れ着く海ごみから、美しい海岸を維持しライフスタイルを見直したい。

豊年祭
五穀豊穣に感謝し、来年の豊作を祈願する祭。

明石エイサー
沖縄本島からの入植とともに伝えられた。

獅子舞
悪霊を払い五穀豊穣と無病息災を祈願する。

リュウキュウイヌ（琉球犬）
古来より沖縄で猟犬として飼育されてきた地犬。

イザリ
冬の大潮の干潮時に行われる伝統的な漁。

投網
ミジユンなどを捕まえる。

図 4-1 イラストを用いたデザイン事例(上:富士山麓地域 下:石垣島平久保半島)

ストーリーを伝える、おすすめの場所や体験 **1-1 富士山の姿**

■ 男富士と女富士



富士山には「男富士」と「女富士」という呼び名があります。見る方向によって富士山の印象が異なり、山梨県側から望む富士山は力強く堂々とした姿を呈していることから「男富士」、静岡県側から見る富士山はなだらかな山容を呈していることから「女富士」と呼ばれます。この違いは、火山活動による地形の変化や風の影響による浸食の差によるものと考えられています。どちらの富士山も、それぞれ異なる美しさをもち、見る場所によって表情が変わるのが魅力です。ぜひ、さまざまな角度から富士山を眺め、その雄大な姿を堪能してみてください。

■ 赤富士と紅富士



山頂に雪がない富士山が朝日や夕日で真っ赤に染まって見える様子を「赤富士」と呼び、とても雄起のよいものと考えられます。写真北斎の描いた「飄風快晴(がいふうかいせい)」が有名です。一方、雪を被った富士山が鮮やかな紅色に染まった様子を「紅富士」と呼びます。いずれも、天候や季節、見る位置などの条件が違わなければ見ることができませんが、「紅富士」の方が比較的見られる機会が多いようです。

■ ダイヤモンド富士、逆さ富士(田貫湖)



日の出や日の入りのタイミングで、太陽が富士山頂と重なるように見える様子を「ダイヤモンド富士」と呼びます。日の出時には富士山西麓、日の入時には富士山の東側で見られます。特に、田貫湖がダイヤモンド富士(4月・8月の20日前後)の名所です。

■ 中ノ倉峠からの富士山



中ノ倉峠は本栖湖西岸に位置し、登山道は30分ほど多くと距離できる雄大な富士山と本栖湖を一瞥する絶景スポットです。ここは「富士の写真家」として有名な岡田紅陽が、1935年に代表作「湖畔の春」を撮影した場所として知られ、日本の紙幣の図柄として採用された景色が広がります。ただ、風が強い本栖湖で「逆さ富士」を見ることができるのは年に数回程度だそうです。

■ その他のおすすめの場所

● 高指山	● 明神山
● 石割山	● 大平山
● 雄川	● 足和田山(玉置台)
● 三浦台・紅葉台	● 三方山(精進道北側)
● 電ヶ谷から駒ヶ岳	● 朝霧高原

人と歴史 **1-2 自然と調和する歴史と文化の融合**

目録編

- 江戸時代、初代将軍徳川家康の御誓を記するために建立されました。
- 日光東照宮をはじめ二社一寺は、「日光の社寺」として世界文化遺産に指定されています。日光国立公園は世界遺産登録地を含んでいる国立公園なのです。

日光の二社一寺をはじめとする歴史的建造物は、背後に広がる日光連山の自然と信仰の歴史が一体となり、独特の文化的景観を形成しています。山岳信仰の修験の地として1200年以上の歴史を刻む日光山には、神仏が寄り、自然と折りが織りなす物語が息づいています。その後、日光東照宮が建立されると信仰地は社参の地としての側面をもつようになり、伝統と新しい文化が融合する独自の魅力を生み出しています。

■ ストーリーを伝えるための場所や体験

日光東照宮



日光山輪王寺



日光三光山神社



図 4-2 写真を用いたストーリーの説明事例(左:富士山麓 下:日光)

基礎知識編：吉野熊野国立公園を知る 10

吉野熊野国立公園の多彩な地域資源やトピック

吉野熊野の様々な地域資源や魅力は、大地の形成過程に由来する地形や地質、そこに多量の雨や黒潮の暖かさの影響を受けて成立した類まれな山・川・海の自然環境、自然に対する畏敬の念が育んだ熊野三山や吉野・大峯、修験道に代表される信仰や精神性、林業や漁業など自然と共に生きてきた人々の文化や生業など、互いにつながり合っています。これらの価値や魅力を次の世代に伝えるための保全や利用の活動も色々な形でなされています。

未来につなぐ保全・利用の努力

変わりゆく自然や文化を将来に伝えていくため、多くの主体により森林の再生や歩道の維持管理、サンゴ保全、清掃活動や、ガイドや観光事業者の積極的な活用・発信など、様々な保全や利用の活動が行われています

人の暮らしと共にある文化や生業の価値

自然を活用した林業、漁業、農業などの生業や、伐採した木を運ぶために川を使って急流を下った筏師、地形と黒潮の恵みを受けて発展した古式捕鯨など、特徴的な文化がたくさんあります

自然そのものを信仰する精神性の価値

巨岩、巨樹や深い森など、迫力ある自然そのものに対して抱く畏れや敬いの念が、熊野信仰や修験道などこの地域ならではの深い精神性を有する信仰を古くから育み伝えてきました

山〜川〜海の豊かで奥深い自然環境

多様な森林環境を有する果てしない紀伊山地の山々、大量の雨と土砂を運び深谷を刻む熊野川・北山川の流域、黒潮の影響を受ける豊かな外洋性の海が揃っています

ダイナミックな大地の形成過程

この地域の地形を造ったプレート活動や海底での堆積、熊野カルデラの火山活動とマグマの上昇、隆起や水による激しい浸食を繰り返して生み出された様々な造形が、長い年月とともに大地の力を伝えてくれます

数10年〜

数100年〜

1000年〜

1万〜数千年

10万〜数千万年

時間のスケール感

図 4-3 図解を用いたストーリーの説明事例(吉野熊野)

3. 知床版 IP 全体計画（ストーリーブック）の構成について

前節までの事例調査を踏まえ、知床での IP 全体計画策定方針と構成案について提案する。

1) 策定の方針

名称

「IP 全体計画」にはこだわらず、ストーリーブックとして発行する。具体的な名称、サブタイトルなどについては複数案を用意し、ワークショップ等で議論するのも一案である。

構成

全体を 3 部構成とし、第 1 部では策定の趣旨や活用方法等の説明を丁寧に行う。第 2 部をストーリー集の核とし、ストーリーとそれに紐づく体験を掲載する。第 3 部をより詳しく知るための参考資料やストーリーのエビデンス、来訪者分析などを整理したデータ集とする。また、索引や策定プロセスに関する情報を付する。

テーマとストーリーの数

4 つのテーマ（カテゴリ）毎に 3~5 程度のストーリーを掲載する。

デザインとボリューム

写真とイラストを使い分ける。必要に応じてインフォグラフィックなどの図解を用いる。ページ数は 30~40 ページ程度を想定する。

2) 構成案

第1部 概説編 :ストーリーブックの目的と用途			
1-1	はじめに	経緯、ねらい、策定者の思い	1
1-2	SBの目的と構成	策定の目的とSBの構成とSBのみかた、使い方	1
1-3	IPとIP全体計画	インタープリテーションとIP全体計画についての一般的理解。用語解説?	1
1-4	対象とSBの活用方法	SBの対象や利活用のイメージ	1-2
第2部 ストーリー編 :知床を知り・守り・楽しむためのストーリー			
2-1	来訪者と共有したい知床の価値	知床らしさ、に関する全体的なまとめ、体系化 地図情報、インフォグラフィックなどで表現	2~4
2-2	来訪者に望まれる体験	来訪者にしてほしい体験やアクティビティ	2~4
2-3	ストーリー01(地理・地形) 火山、景観、流氷	<ul style="list-style-type: none"> ・4程度のカテゴリ(テーマ)について、それぞれに紐づくストーリーを3~4点程度まとめ。 ・テーマの分類は昨年度のまとめを参照したが、要検討。現段階ではストーリーの数は15~20 くらいの想定。 ・1~2Pの構成でビジュアル、イメージを中心に各ストーリーをまとめ。 ・詳細情報などは資料編を参照できる体裁とする。 	20
2-4	ストーリー02(自然) 野生動物、世界遺産		
2-5	ストーリー03(伝統・文化・歴史) 歴史や文化、自然保護		
2-6	ストーリー04(産業・暮らし・食) 人と自然の関わり		
第3部 インフォメーション・資料編:みんなで学び、伝えるシレットコのコト			
4-1	来訪者の分析	統計情報、ビッグデータ等をふまえた来訪者の姿	2~4
4-2	参考文献や書籍情報	ストーリーを支えるファクト より深掘りした情報の整理	6
4-3	作成プロセスとWS	作成のプロセスやWSの開催経過	2
4-4	制作体制と今後の予定	作成者情報 まとめと今後の予定	1